

## 参考資料 (北九州市における気候の変化と予測)

67

### ①気温

#### 【これまでの観測結果】(下関)

年平均気温は、100年あたり1.8°Cの割合で上昇している

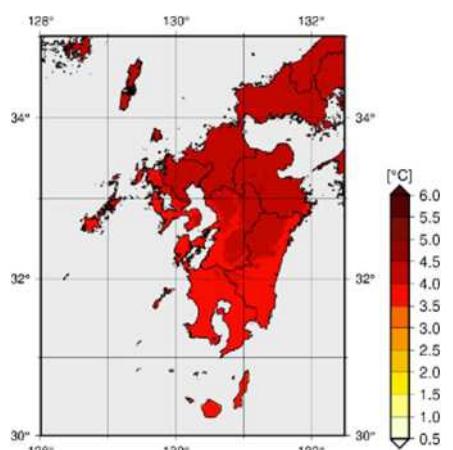
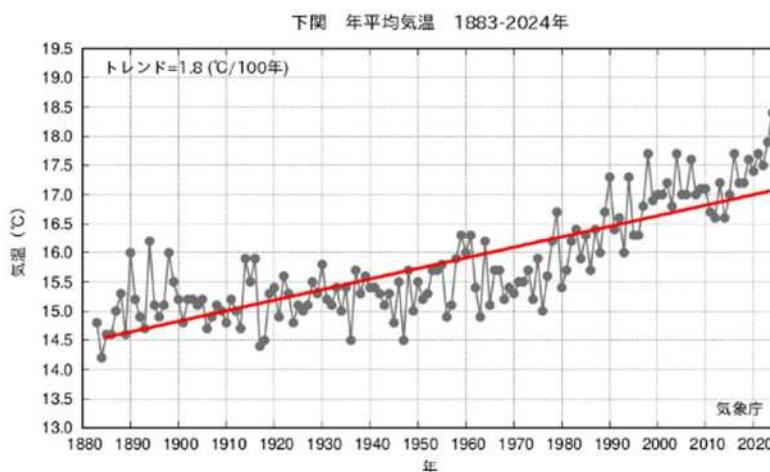
#### 【これからの将来予測】(九州北部地方)

20世紀末に比べて、21世紀末の平均気温の上昇量は、

**4°C上昇シナリオ**で約4.1°C、**2°C上昇シナリオ**で約1.3°C上昇すると予測されます

**4°C上昇シナリオ(RCP8.5)**:21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4°C上昇。追加的な緩和策を取らなかった世界に相当。

**2°C上昇シナリオ(RCP2.6)**:21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2°C上昇。パリ協定の2°C目標が達成された世界に相当。



出典:(左)九州・山口県のこれまでの気候の変化(観測結果) 福岡管区気象台 webサイト  
(右)九州・山口県のこれからの気候の変化(将来予測) 福岡管区気象台 webサイト

## ②真夏日(日最高気温が30℃以上)・猛暑日(日最高気温が35℃以上)

### 【これまでの観測結果】(下関)

真夏日・猛暑日の年間日数は、変動を繰り返しながら増加している

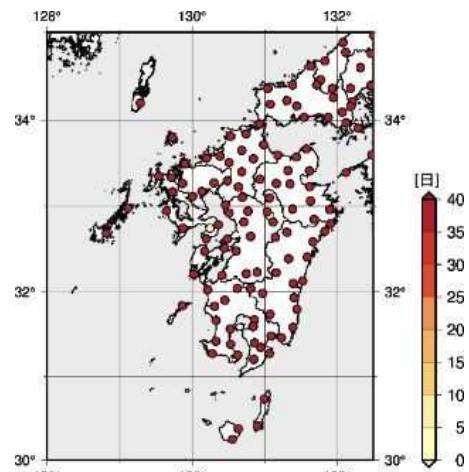
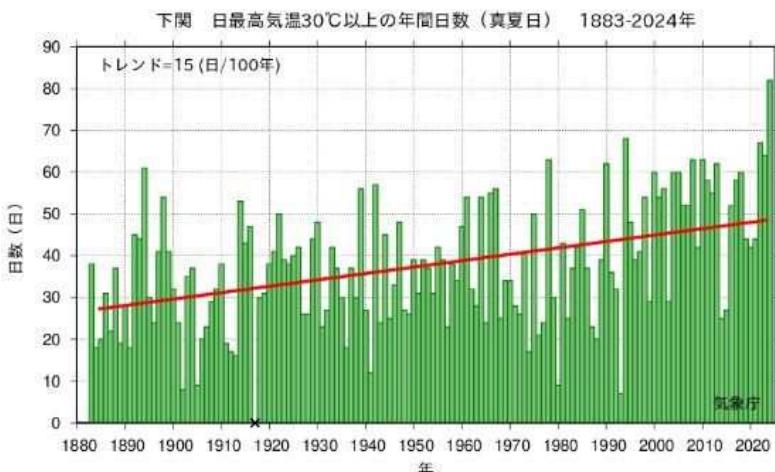
### 【これからの将来予測】(九州北部地方)

20世紀末に比べて、21世紀末の真夏日および猛暑日の増加日数は、それぞれ、

4℃上昇シナリオで約57日、約25日、2℃上昇シナリオで約15日、約4日増加すると予測されている

4℃上昇シナリオ(RCP8.5):21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4℃上昇。追加的な緩和策を取らなかった世界に相当。

2℃上昇シナリオ(RCP2.6):21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2℃上昇。パリ協定の2℃目標が達成された世界に相当。



出典:(左)九州・山口県のこれまでの気候の変化(観測結果) 福岡管区気象台 webサイト

(右)九州・山口県のこれからの気候の変化(将来予測) 福岡管区気象台 webサイト

69

## ③短時間強雨

### 【これまでの観測結果】(九州北部地方)

短時間強雨(1時間50mm以上)の年間発生回数は増加傾向

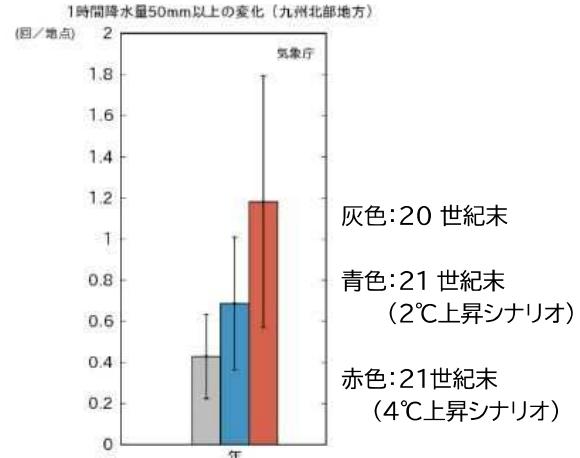
### 【これからの将来予測】(九州北部地方)

20世紀末に比べて、21世紀末の短時間強雨(1時間50mm以上)が降る年間回数は、

4℃上昇シナリオで約2.8倍、2℃上昇シナリオで約1.6倍になると予測されている

4℃上昇シナリオ(RCP8.5):21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4℃上昇。追加的な緩和策を取らなかった世界に相当。

2℃上昇シナリオ(RCP2.6):21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2℃上昇。パリ協定の2℃目標が達成された世界に相当。



出典:(左)九州・山口県のこれまでの気候の変化(観測結果) 福岡管区気象台 webサイト

(右)九州・山口県のこれからの気候の変化(将来予測) 福岡管区気象台 webサイト

-36-

70

## ④海面水温

### 【これまでの観測結果】(九州近海)

年平均海面水温は、100年あたり1.08~1.37°Cの割合で上昇している

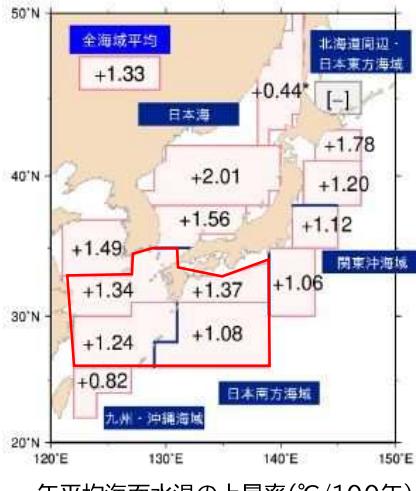
### 【これからの将来予測】(九州近海)

20世紀末に比べて、21世紀末の年平均海面水温は、

4°C上昇シナリオで2.96~3.47°C、2°C上昇シナリオで0.87~1.23°C上昇すると予測されている

4°C上昇シナリオ(RCP8.5):21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4°C上昇。追加的な緩和策を取らなかった世界に相当。

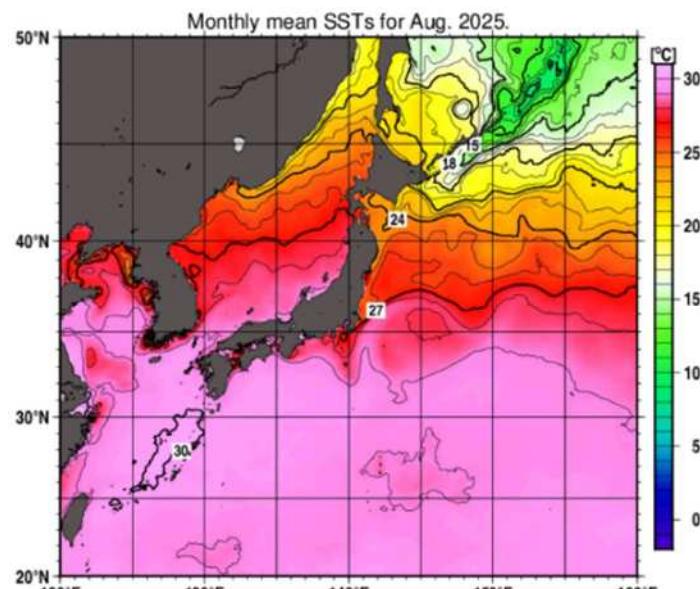
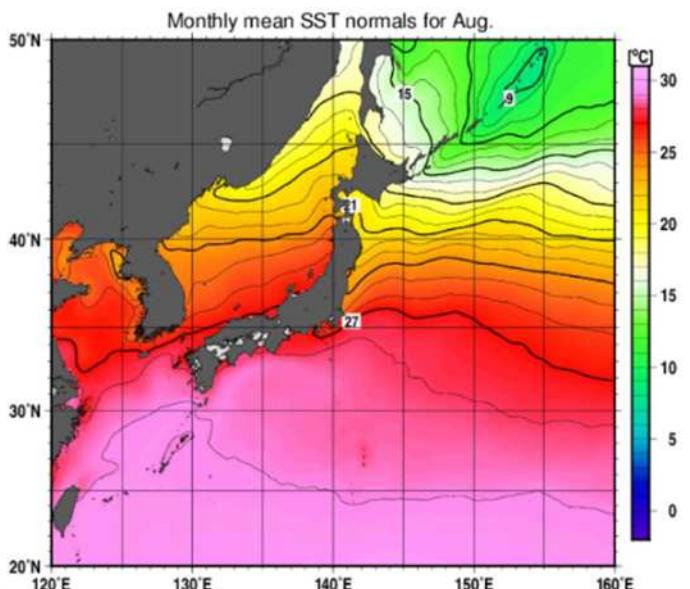
2°C上昇シナリオ(RCP2.6):21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2°C上昇。パリ協定の2°C目標が達成された世界に相当。



出典:日本の気候変動2025 文部科学省 気象庁

71

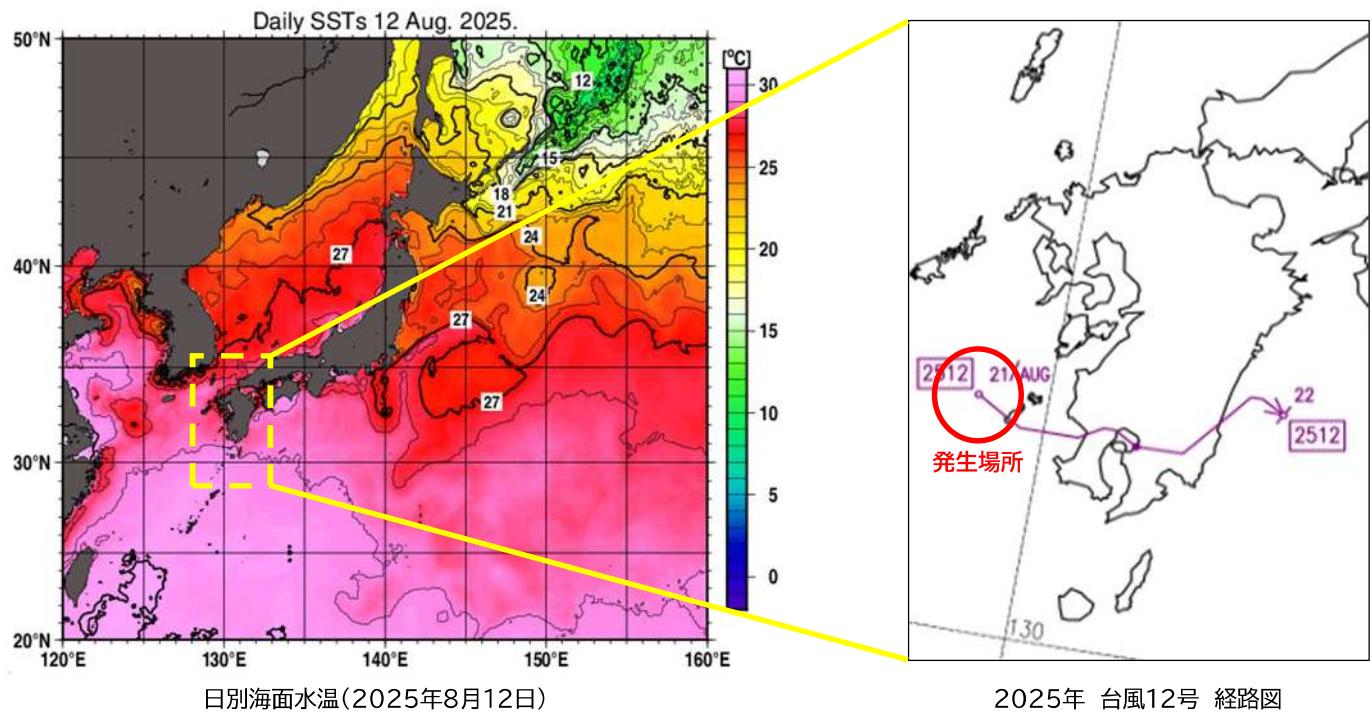
### 【参考】日本周辺の海面水温の変化



出典:気象庁HP

## 【参考】日本周辺の台風の発生

▶ 本年8月12日には、鹿児島県の西側で台風12号が発生し、九州南部を横断した。



73

## 11 計画の推進

# 計画の進行管理・フォローアップ体制

## 進行管理の基本的な考え方

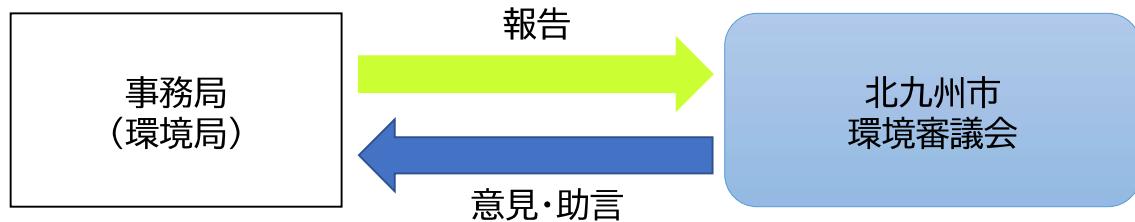
- ①市域内からの温室効果ガス排出量等を推計し、削減目標の達成状況を確認
- ②計画に掲げる各施策の取組状況を把握
- ③「施策の実施に関する目標(モニタリング指標含む)」についてその推移を把握

⇒毎年1回、上記①～③を実施して総合的な評価・検証を行い、効果的な進行管理を行う。



## フォローアップ体制

- 上記①～③による評価や確認結果を「北九州市環境審議会」に報告し、意見・助言を受け、必要な改善を行う。



75

## 施策の実施に関する目標

部門	主な施策	項目	基準	目標	モニタリング指標※2
家庭	脱炭素型ライフスタイルへの転換	社会課題を意識し、日常生活の中で解決に向けた行動に取り組む市民の割合	40.4% (2022年度)	60% (2028年度)	世帯あたりエネルギー消費量 世帯あたりCO <sub>2</sub> 排出量 (▲) ZEH普及率※3 (↗)
業務	省エネ設備の普及	太陽光発電や高効率省エネ設備の導入補助件数	—	15件／年	延床面積(m <sup>2</sup> )あたりエネルギー消費量 延床面積(m <sup>2</sup> )あたりCO <sub>2</sub> 排出量 (▲) ZEB普及率※4 (↗)
運輸	次世代自動車の普及	電動車(EV・PHV・PHEV)や充電器の導入補助件数	—	3.8万人／10万人を維持 (2026年度)	自動車(台・km)あたりエネルギー消費量 自動車(台・km)あたりCO <sub>2</sub> 排出量 (▲)
	公共交通の利用促進	人口10万人あたりの公共交通利用者数	3.8万人／10万人 (2019年度)		
産業	水素拠点の形成	水素拠点数	0拠点 (2023年度)	1件 (2030年度)	製造品出荷額等(円)あたりエネルギー消費量 製造品出荷額等(円)あたりCO <sub>2</sub> 排出量 (▲)
	GXの推進	GX関連の新ビジネス創出数	—	30社 (2030年度累計)	
分野横断	再エネの普及	再エネの導入量	436MW (2020年度)	1,402MW (2030年度)	—
	CEの推進	サーキュラーエコノミー市内関連投資額	10億円 (2022年度)	30億円 (2030年度)	—
国際	国際貢献	環境改善・脱炭素化に向けた国内外からの研修員受入数(1980年度からの累計)	10,499人 (2022年度)	12,500人 (2030年度)	—

※1：計画策定時のもの。今後、各種行政計画の改定などにより、引用している指標項目や目標値等に変更があった場合は、それに準じる。

※2：モニタリング指標・・・各部門に関するエネルギー及びCO<sub>2</sub>原単位やZEH/ZEBの普及率について、毎年のトレンドを確認するもの

※3：新築住宅のうちZEH基準の水準の省エネ性能に適合する住宅の割合(福岡県)

※4：中大規模の新築建築物のうちZEB基準の水準の省エネ性能に適合する建築物の割合(全国値)

76

- 本計画は、現在の国の地球温暖化対策やエネルギー政策を踏まえて作成したものであるが、今後の社会経済情勢の変化や、地球温暖化対策に係る国内外の動向を踏まえ、5年後を目途に、計画の見直しの必要性について検討を行う

### 11月18日(火)北九州市環境審議会での委員からの主な意見

- 気温上昇を1.5度に抑えるためには、より高い目標設定が必要ではないか。
- KPIについて、市内の足元の数字が把握できるような仕組みをつくるなど、工夫してもらいたい。
- 国際貢献による削減量とモニタリング指標の人材育成人数との関連性は低いのではないか。人材育成の貢献をCO<sub>2</sub>削減量として算定する仕組みを考えていいくことも大事だと思う。
- 北九州市の促進区域について、太陽光発電だけでなく、もっと踏み込んだ内容にできないか。
- 市役所業務において、Scope3対策についても、記載してはどうか。
- 気候変動適応(適応策)において、地球温暖化と動物との共生という観点から、ワンヘルスについても記載してはどうか。